

●日本国憲法より●

第13条 すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。第25条 すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。



第748号

発行所

〒036-8045
弘前市大字野田2丁目2の1
津軽保健生活協同組合
発行責任者 村上渡
電話 0172-33-7515
ホームページ http://www.tsugaru-health.coop
Eメール kenkou@tsugaru-health.coop
印刷所 有限公司新和印刷
◎組合員の購読料は出資金に含まれます

健
康
2025.7

総代会特集

(本号は、総代会の決定内容をお伝えするため、5日ほど発行が遅れました)

2025年度 第100回通常総代会

「いのちの端」津軽保健生協を守り抜き、 いのちと平和を未来へつなごう

はないかと思います。経営状況に関する専務の報告の中で詳しく述べると思いますので、詳細は専務の報告に譲りますが、現在直面している経営の危機的状況をすべての職員・組合員の力を結集することで理事会が先頭に立って乗り切っていきたいと、決意を込めて述べた

と思います。古い城下町の弘前も、りんごと米のみのり豊かな農村も美しい。その美しさが、人間が人間として生きていいくための美しさ、豊かさにむすびつくまで、津軽の働く人びとがほんとうのしあわせをつかむまで―津軽に光のさしむまで、私たちは民衆とともにたたかいつづけていくだ

6月14日に津軽保健生協の通常総代会が藤崎町文化センターで開催されました。今回は第100回という節目の開催となり、午前に記念企画として各事業所の活動報告、班・組合員・支部表彰・永年勤続役員表彰、新入医師紹介が行われました。午後に通常総代会が開催され、出席総代211名、書面議決78名、代理出席4名、合計293名の総代にて、理事会から提案された第1号議案から第3号議案まですべて賛成多数で可決されました。記念企画で行われた各事業所の活動報告は、機関紙「健康」8月号にて内容を紹介します。



総代のみなさんが熱心に耳を傾けて、津軽保健生協の明日を共に考えました

津軽保健生協は国民皆保険制度がない時代に、津軽の貧しい農民や市民が、自分たちがかかる医療機関をつくろうとして、志を同じくする医療従事者などと力を合わせて発足しました。それ以来わたしたちの先輩たちも含め常に「最も弱い立場の人」に寄り添うことを基本に事業活動を進めてきました。現在私たち津軽保健生活協同組合は厳しい経営危機状態ですが、経営は私たちの本来の目的を実現するための手段に過ぎません。しかしながら経営的な裏付けがなければ、この地で事業活動を続けることはできません。わたしたちの最も根源的な使命は、「この津軽の地からいなくならない」ことです。

人も動物も誰もが、平和で健やかに安心して住み続けられるよう、医療福祉の活動を通じて津軽地域に住む人びとの健康と暮らしに貢献していきたいと考えています。今後とも皆さんのご協力をいただきますよう宜しくお願ひいたします。

最後に初代組合長・津川武一さんの言葉

第100回 通常総代会 スローガン

一、通常総代会100回の歴史を力に、いのちとくらしを守る医療・介護事業を維持・発展させ、経営の健全化と安定化を図りながら、事業・経営・運動を組合員と職員の「協同」で進めよう。

一、総力をあげて地域とのつながりを広げ、仲間ふやし・出資金ふやしの目標を達成し、津軽保健生協を大きく、強くしていこう。

一、「時間外労働月80時間・引退前提80歳」に象徴される絶対的医師不足と向き合い、津軽地域の行政・医療機関と力を合わせて、医師の確保・育成を進め、誰もが安心して受けられる医療提供体制を実現しよう。

一、憲法を守り生かし、大軍拡・改憲に反対し、いのちとくらしを大切にする平和では思いますが、各事業所がどんなことを活動のほんの一部しか紹介できなかつたとは思いますが、各事業所がどんなことを



新研修医5人に激励の声が飛ぶ

を「医療を民衆の手に」から紹介します。

いかに美しい故里でも、またどん

なにりっぱな病院をもとも、働く

く人びとが貧しさの故に医療を安ん

じてうけられない現実があるかぎり、

それは悲しくいわ。

健生病院の事業活動

- 高齢者の救急搬送が増加しており、2023年の搬送件数は前年比5%増の12,392人、そのうち約7割が65歳以上。2024年10月に「地域包括医療病棟」を開設し、リハビリや栄養管理、入退院支援を提供して在宅復帰を支援。半年間で292人の患者を受け入れた。
- 重点課題として業務効率化を推進。プロジェクトチームがカルテ記録や申し送りを見直し、多職種で業務改善を実施。これにより残業時間を3割削減、医療事故ゼロを達成。

(13)

健生病院の事業活動

- 地域組合員との交流を促進、病院大会参加や大規模な地域訪問を実施。入院着に組合員価格を設けるなど加入促進策を講じ、組合員は前年比188人増の657人の仲間ふやし。
- 積極的な入院患者受け入れで病床利用率が向上
- 医師体制の悪化で外来、手術、内視鏡、分娩が減少
- 医師体制に頼らないリハビリや健診を伸ばし增收につながった

(14)

組合員活動

【生協強化月間】

- ✓秋の全国統一月間と支部独自の二か月の月間設定月間推進委員会を3ブロック（中弘・南黒・西北）で開催、月間方針の意思統一
- ✓組合員台帳整理訪問、お元気ですか訪問、増資のお願い訪問
- ✓待合室や病室での組合員加入・増資の訴え
- ✓職員と組合員共同の地域訪問

(15)

四中りんご・さくら支部
合同健康まつり深浦岩崎支部
活動者交流集会

(16)

組合員活動

- 【班会・たまり場で健康づくり・安心づくり】
- ✓134班で年間817回の班会、延べ4,282名が参加
 - ✓健生病院の班会メニューが年69回で好評、町会に呼びかけての開催も
 - ✓和徳、大成、三大、文京、東中、南、黒石の各支部たまり場でゆるやかなつながりづくり

【個別課題】

- ✓市浦支部が10年ぶりに運営体制確立で再建

(17)

大成支部たまり場
「わとの生き生きサークル」和徳支部たまり場
「サロンつくし」

(18)

大運動方針の実践

- 職員向け学習教材：医療生協の理解・復習
 - 出資金増資スタンプカード
 - 出資金2,000円以下組合員への訪問
 - 組合員活動の前進
 - 理事・職員・組合員が一体となった創意工夫のとりくみ
- ◆結果：数としては4年連続の組合員・出資金の減少
減資額：1.4億円（直近7年で最多）

(7)



第1号議案

2024年度事業報告、
決算関係書類の承認に関する件

(1)

医師確保の課題

- ◆初期研修医 23年度2名、24年度4名、25年度5名
23年度の2名が終了し、2名とも青森県民医連に在籍しながら専門研修へ
- ◆既卒医師入職1名、退職6名：医師数減少
→医療活動（質・量）への影響、現在在籍医師の負担増が危惧される
- ◆青森県民医連全体で依然として医師不足

(8)



2024年度 世界の情勢

- ロシアのウクライナ侵略：戦闘の長期化、人道危機の深刻化、避難民の増加、インフラの破壊
- イスラエル・パレスチナの衝突：民間人の被害増加、物資の不足、不十分な支援
- 日本被団協のノーベル平和賞受賞：核廃絶へ向けた長年のとりくみが国際的に評価
- トランプ大統領再選：経済、外交、安保、エネルギー政策などが世界経済や国際関係へ影響する可能性

(2)

働き方・待遇改善の推進

- ◆待遇改善のための加算は適切に賃金改善へ充当
- ◆訪問看護ステーション看護師へ調整手当
- ◆ケアマネ手当の増額
→ケアマネは政府による待遇改善政策の対象外
ケアマネの賃金増をめざした運動が必須
- ◆2交代制勤務の導入（検査科、放射線科）
- ◆看護師夜勤2交代導入へ向けたプロジェクト
- ◆法人休日、4週8休、定年延長などは継続課題

(9)



2024年度 日本の情勢

- 衆議院選挙結果：与党が過半数割れ、石破内閣の発足
- 防衛費増額、防衛特別法人税・防衛特別所得税の導入検討
- 物価高騰・あらゆる物価の高騰止まらず、米の価格上昇
- 医療・介護業界の危機：倒産件数過去最多
- 高額療養費制度自己負担限度額引き上げは白紙撤回を
- マイナ保険証一本化に対する不安
- 能登半島地震から1年以上経過、長期的な視点で支援を
- 原子力発電の利用拡大が明確化、ALPS処理水放出の継続

(3)

組合員参加のあり方提言

- ◆支部活動交流集会で学習会実施
- ◆学習の範囲と内容をさらに充実させ、多くの職員と組合員の討議や理解を広げる必要がある
- ◆津軽保健や各支部の今後のあり方についてさらに深めていく

(10)



経営課題

- 2024年度決算
事業剰余▲6.0億円（予算+0.8億円、前年+7.1億円）
経常剰余▲5.7億円（予算+1億円、前年+3.5億円）
- ☆病床利用率の向上、健診受け入れなどによる収益増加
毎日の予算管理（患者数目標の到達把握）などで前進
- ☆職員配置数の適正化、時間外業務削減（プロジェクトの成果）
材料・在庫の見直し、委託業務内容の見直し

予算・前年を超過したものの、必要剰余には大きく届いておらず“経営危機”状態が継続

※必要剰余までにはあと6億円の改善が必要

(4)

機関紙「健康」の活用

- ◆2024年度は計10回発行、4面・8面それぞれ5回
- ◆支部活動、事業所活動のほか、「医師からの紙ヒコーキ」「健生病院の仕事人たち」などシリーズが好評
- ◆虹の投書箱への誠実な回答で組合員になった人も
- ◆新年号では初期研修医による座談会企画
- ◆豪雪で手配り厳しく2月号を発行中止、3月号を8面構成で充実

(11)

平和と人権を守る活動

- ◆平和行進への参加
- ◆原水禁（広島）に医師2名含む3名派遣
「自分たちから平和活動を救っていきたい」
- ◆能登半島被災地へ組織部員が支援、健康チェックや訪問行動への取り組み
- ◆社保平和委員会が中心となって、各種署名やスタンディングアピール、学習会などが旺盛に取り組まれた

(12)



介護事業の課題

- 全日本民医連経営部の現地調査（2024年12月）
～各事業所の経営分析や改善策を議論
- 経営管理が不十分（進捗管理など）
 - 本部・病院事務局機能の弱さ（部長不在など）
 - 職員配置数や委託費などの大きな見直しが必要
 - 事業継続の判断が必要な事業所あり
 - 複数年かけて改善する資金的余裕はない、1年で必要な水準に回復することをめざすべき
→2025年度は必要剰余獲得の予算作成をめざす決意

(5)

経営活動

【決算の概要】

- 事業収益 105億5,084万円（予算△2億4,698万円、前年+1億9,230万円）
- 事業費用 111億5,791万円（予算△3億3,423万円、前年△5億2,204万円）
- 事業余金△6億 707万円（予算+8,724万円、前年+7億1,434万円）
- 経常余金△6億7,125万円（予算+9,803万円、前年+3億5,147万円）
- 当期余金△5億7,058万円（予算+1億66万円、前年+3億6,227万円）

償却前经常剩余（=獲得資金）
1億806万円 →赤字であった前年から4.1億円の改善となり予算も上回ったが、予算が必要な水準に大きく届いていないため、予算を達成しても資金が減少した。



組合員活動

【生協四課題】

- ✓5支部が四課題達成、6支部が三課題達成

【仲間ふやし】

- ✓1,508名（目標比60%、前年比125%）
- ✓自由脱退354名、法定脱退1,235名
- ✓組合員数は81名の純減、総組合員数49,907名
- ✓長期住所不明の組合員整理は実施せず
- ✓18支部、2事業所が自主目標達成

(2面かうづく)



経営活動

【財政状況】

純資産 4億2,516万円 ※自己資本比率3.5%
現預金 10億1,357万円 ※月商倍率1.15倍
借入金 短期：1.6億円（年末一時金支給目的）
長期：68億8,339万円
組合債：2,111万円

- ✓電子カルテ更新費用7億円を含めて10億7,724万円の減少
- ✓月商倍率1.15倍で最低限保持すべき水準だが、資金減少構造のため今後の資金繰りには十分な留意が必要
- ✓長期借入金は約定通り返済が進んでいる
- ✓出資金は4年連続で純減



重点課題③人材確保・育成と質の向上

- 医師をはじめとする医療・介護従事者の確保と養成、質・量の両面から人材育成にとりくむ
- 研修・学習機会の拡充
- 働きがいと誇りのある職場づくりの推進

重点課題⑤2025国際協同組合年を機にした連携と社会的発信

- 医療福祉生協の理念と活動を発信
- 他協働組合・自治体との連携強化
- 平和で公正な社会づくりへの行動



継続課題

- (1) 経営危機からの脱却
- (2) 組合員活動、仲間ふやし、出資金ふやし
- (3) 医師確保と配置の課題
- (4) 職員の働き方・待遇の見直し
- (5) 機関紙「健康」の活用と全国への情報発信
- (6) 平和と人権を守る活動



組合員活動

【出資金ふやし】

- ✓9,936万6,800円（目標比40%、前年比108%）
- ✓自由脱退2,225万3,400円、法定脱退3,630万3,400円
減資8,367万2,800円
- ✓4,286万2,800円の純減、総出資金14億5,285万円
- ✓20支部が自主目標達成

【班づくり】

- ✓新班11班結成、廃班18班で登録班が減少
- ✓9支部が自主目標達成



第2号議案

2025年度事業計画、予算の承認に関する件



重点課題①2つの危機への対応

①組合員参加の危機

- ・班活動や健康づくり活動の定期開催
- ・若年層・子育て世代へのアプローチ強化
- ・組合員のあり方提言（医福連）の学習と協議

②経営・事業継続の危機

- ・2025年度予算の超過達成
- ・財政支援や安定経営を求める運動への参画



青森県庁

健康福祉部長訪問(2025.4.17)



重点課題②地域に開かれた津軽保健

- 多世代の参加促進

- 地域イベント・学習会

健康講座、介護予防体操、認知症カフェ等
協同の場を創出

重点課題③事業戦略

- 地域需要と事業が合致しているかを再点検し、必要があれば需要に即した提供体制を再構築

役員変更のお知らせ

2025年7月1日より

【専務理事】 泉谷 雅人
(現・常務理事
および健生病院事務局長)

【副専務理事】 村上 渡
(現・専務理事)



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます



委員会・事業所の2025年度活動

【組合員活動委員会】 【社会保障平和委員会】
【事業所利用ボランティア委員会】
【健康づくり委員会】 【教育委員会】

- ◆健生病院 ◆健生クリニック ◆藤代健生病院
- ◆津軽医院 ◆健生五所川原診療所
- ◆健生黒石診療所 ◆健生訪問看護ステーションたまち
- ◆地域生活支援センターひあす
- ◆弘前市第一地域包括支援センター

詳細は議案書をご確認ください。

(32)

(28)



経営活動

【財政状況】

純資産 4億2,516万円 ※自己資本比率3.5%
現預金 10億1,357万円 ※月商倍率1.15倍
借入金 短期：1.6億円（年末一時金支給目的）
長期：68億8,339万円
組合債：2,111万円

- ✓電子カルテ更新費用7億円を含めて10億7,724万円の減少
- ✓月商倍率1.15倍で最低限保持すべき水準だが、資金減少構造のため今後の資金繰りには十分な留意が必要
- ✓長期借入金は約定通り返済が進んでいる
- ✓出資金は4年連続で純減



重点課題③人材確保・育成と質の向上

- 医師をはじめとする医療・介護従事者の確保と養成、質・量の両面から人材育成にとりくむ
- 研修・学習機会の拡充
- 働きがいと誇りのある職場づくりの推進

重点課題⑤2025国際協同組合年を機にした連携と社会的発信

- 医療福祉生協の理念と活動を発信
- 他協働組合・自治体との連携強化
- 平和で公正な社会づくりへの行動



継続課題

- (1) 経営危機からの脱却
- (2) 組合員活動、仲間ふやし、出資金ふやし
- (3) 医師確保と配置の課題
- (4) 職員の働き方・待遇の見直し
- (5) 機関紙「健康」の活用と全国への情報発信
- (6) 平和と人権を守る活動



組合員活動の取り組み

- ◆班会・たまり場づくりで健康づくり安心づくり
 - ・フレイル、認知症予防で健康寿命
 - ・世代や組合員の枠を超えた多様な参加
 - ・町会や団体など地域の連携で新たなつながりを
 - ・楽しい居場所づくりと安心づくり
- ◆担い手探しを粘り強く
- ◆2025年度も大運動方針のとりくみ
- ◆活動の結果として四課題の達成を

(31)

(30)

(26)

(27)



高松 利昌 総代（和徳支部）
支部の活動エリア
が、生協会館のある
地域だ。その中に

「第一地域包括支援
センター」と「地域生活支援セン
ター」があり、高齢者の集いの場づく
りの働きかけを受けて、「サロンつく
し」の名称で当支部が2019年2月
から開始した。当初は月2回の取り組
みで、冬季間足元不安のため3月まで
休み、その後月1回開催に減らした。
開催の案内は月1回発行の「支部
ニュース」だけに載せていたが、その
後他県の取り組みの例から、内輪の取
り組みだけでなく、近隣の町会の回覧
にも入れてもらう段取りをした。それ
から、新たなつながりが生まれた。支
部レク参加者の増加につながり、昨年
10月の十和田湖へのレク参加者は54名
となり、新たな組合員も増えた。

今年は「国際協同組合年」でもあ
り、近隣のコーポあおもり和徳店・株
ファルマの協力も得て、盆踊りを企
画。サロンつくしで3回、盆踊りと
ディスコの練習中だ。室内だけの行事
に限定せず、市内外の神社仏閣などの
見学ツアーも企画している。

昨年度は四課題の目標も達成。そ
して「健康」手配り率も84.4%で、
機関紙配布率で全支部のトップになつ
た。さらに地域に影響力を發揮できる
支部に成長していきたい。

今年4月期の月次仮決算では現預
金額が2億8百万円減って8億5百万
円、月商倍率は0.92倍ということ
した。どのようになっているのかお知
らせください。

次に、今年度予算案では、償却前
経常剰余を6.4億円としています
が、これでも必要利益には届きませ
ん。しかし、そうであったとしても
6.4億円をどのようにして実現する
のか。

国の2025年度予算を成立する
ために自民公明両党は維新の会と合意
しました。その結果、2026年度
からは医療費だけで4兆円もの削減を
することになります。こうした政
府の動きを許さない闘いも必要です。

全体討論の要旨

石田 久 総代（時敏支部）
生クリニックが扇
町に移転して早や8年。コロナを経験
し、異常な物価高騰の影響もあり、病
院経営は厳しい状況が続いている。か
つて生協会館に診療所機能の設置が提
起され、第90回総代会において第4次
中長期事業計画を討論した折、旧健生
クリニックの診療所機能の存続への努
力が修正動議として出され、可決し
た。青森民医連加盟店の医師体制
が逼迫しているが、まちづくりや経営
の視点からも重要だ。さらに97回総代
会でも、実現に向け引き続き設置を展
望した。今回第100回の記念すべき
総代会ではどのように具体的な提案が
されるのか、お答えください。地域と
医療生協が一体となって健康づくりや
まちづくりをすすめていくためにもサ
ポート実現を強く要望する。



高橋 佳孝 総代（五所川原支部）

中医協の資料の中
で、病院の收支構造
の変化という、20
18年と2023

年の对比した資料があつた。事業収益
は10%、しかし事業費用は15%も伸び
て、結果、事業利益はマイナスになっ
ている。内容は人件費以外の医薬品だ
とか医療材料費、委託費だとかそうい
うものが人件費を倍する増加率になっ
ている。当生協だけではなく全国的に
もこういう段階になっていることを実
感した。日本医師会出身の委員が大変
厳しい発言をしている。現在の経営は
大変厳しく、賃金上昇物価高騰、さら
には医療の技術革新への対応ができな
い、このままでは人手不足に拍車がか
かり、患者さんに適切な医療が提供で



高橋 佳孝 総代（五所川原支部）

が、最近は高齢化で
新しい役員、担い手を見つけることが
できず郵送が増えています。
ニック実現に向け
て、健生病院・健



岡 富子 総代（市浦支部）

年問題と病院経営の現実」と題して鉛
筆をなめられている。そこには国の施
策がいかに足元を見ないものであるか
を告発している。

今消費税論議が政治の世界では盛
んだ。この消費税という悪税を当生協
は5年間で20億円も払わされている。

繰越損失は10億円だから、その倍払
っている。これがなければまさに今は左
うちわとなる。そういう風なことで、
今後とも大局觀に立った経営活動を通
じてやつていただきたい。

10月11日に、15年ぶ
りに支部総会を開催しました。私がい
ま支部長をさせていただくことになつ
たのは、父親が保健生協の活動をして
いたことを知つて書き換えた訪問
を受けたことにはじまります。そして
「健康新聞」の手配りを頼まれたので
す。その後、支部体制を整えようとな
り、10月に総会を開催し、副支部長、
事務局長もお願いして、再建されまし
たので、ご指導をお願いし、経過報告
といたします。



外崎 良一 総代（中里支部）

生協四課題の支部
目標が達成できた

活動の取り組みに

ついて報告します。

相馬 支部

力も得られています。秋の生協強化月間の取り組みで、名義変更を依頼した訪問行動では、健康新聞手配り先で名義変更を2件、組合員の出資金相続2件の協力が得られました。

支部レクとして、「弘前城菊と紅葉まつり」へ花咲温泉に出かけ20名の参加があり、出資金の協力をいただきました。

24年度の活動成果で一番大きかったのが「下豊岡班の結成」です。継続して取り組んできた「100歳体操」の世話人に支部の運営委員が関わっており、新班を結成し、6人が新加入。担い手として班長・副班長を出し、新聞手配りの協力も得られました。このことからも、「班会を基礎にした組合員活動」が大事だと感じています。

支部のスローガン『100歳まで健康で長生きしよう』を実践するためにも、組合員活動と健康づくりの運動を、みんなの力も借りながら25年度も進めていきたいと考えています。

佐々木 義仁 総代（黒石支部）



これまで、温泉地でランチ十入浴などで観劇、冬は人形劇「金多豆藏」を観ました。その結果2回の支部レクで前年より29名多く参加し、その場での加入者も8名。今年は8月1日に八戸三社大祭を予定。希望者がとても多く、70名を超えました。参加するため組合に入るという意思表示をしている人（当日加入）は11名です。

コロナで活動自粛になった時は現地集合、現地解散、短時間で合言葉に、ひだまりカフェ（居場所づくり）とウォーキングを始めました。カフェでは折紙で箱作りをしたり、アロマハンドクリームを作ったり、黒石薬局や訪問看護STたまち・ちとせ支所の職員による健康講話を聞いたりしました。ウォーキングはずっと近場を歩いてきましたが、今年はバスを借りて奥入瀬渓流を楽しんできました。カフェも

支部レクとして、「弘前城菊と紅葉まつり」へ花咲温泉に出かけ20名の参加があり、出資金の協力をいただきました。

支部レクとして、「弘前城菊と紅葉まつり」へ花咲温泉に出かけ20名の参加があり、出資金の協力をいただきました。

秋の生協強化月間の取り組みで、名義変更を依頼した訪問行動では、健康新聞手配り先で名義変更を2件、組合員の出資金相続2件の協力が得られました。

医師からの紙ヒヨーキ ⑯

小児科医として、親として

健生病院 小児科 藤岡 彩夏



こんにちは。この度、2025年4月から健生病院小児科で働くこととなりました、藤岡彩夏と申します。青森市出身で、津軽弁は聞くのも話すのも得意です。これまで弘前大学医学部附属病院と、弘前総合医療センターの小児科で働いておりました。当科では、一般的な、風邪や胃腸炎などの感染症の他、てんかん、発達障害、体の成長について、アレルギー等、子どもの病気、悩みについて幅広く対応しております。

現在私は、小学3年生の長男、小学2年生の次男を育てております。2人とも、とても元気で、仲良く遊んでいたかと思えば、激しいケンカをして学校から電話がかかってくることもある、やんちゃ盛りです。これでもまだ手がかかるなくなった方で、小さい頃は更に、目を離せない大変な子たちでした。赤ちゃんの頃は、夜泣きが激しく、夜中の2時から朝の6時まで抱っこし続ける日がありました。離乳食を嫌がり号泣しながら食事用のイスから脱走したり。急に真っ青になってけいれんしたこともありました。少し大きくなり、皆が話し始める年齢になっても中々言葉が出てこなかったり。そうかと思えば、急にたくさんの車の名前を連呼し始めて、でも会話はうまくできなかったり。熱を出してほと

んど何も食べなくなったら、元気になって走り回って前歯が欠けるようなケガをしてみたり。たくさん、たくさんありました。

小児科での診療にあたり、今まで学んだ医学知識を動員し、他の医師からの話を聞き、文献を読み、最適な対応ができるよう、日々情報をアップデートしています。しかし、それだけでなく、子どもを持つ親として、皆さんのお役に立てる面もあるのではないか、と考えています。先に述べた通り、うちの子どもたちには、色々と手のかかる大変な部分がありました。かわいいと思う気持ちだけでは抑えきれない辛さがありました。ですので、同じような辛さを抱えた親御さんと、気持ちを共有し、進んでいく方法を考えていくこともできるのではないか、と思っています。また、子育てをしていく中で、育児に使える便利なグッズにはどんなものがあるのか、近くで子どもたちが楽しく遊べる場所にはどこがあるのか、そういう情報を得ることもできました。直接的には医学とは関係のないお話ですが、そういう意味でも皆さんのお力になればと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。

支部総会



5月10日 北支部 13名



5月13日 文京支部 16名



5月14日 小泊支部 7名



5月14日 鶴田支部 14名



5月14日 藤崎支部 14名



5月17日 常盤支部 21名



5月19日 河西支部 21名



5月21日 時敏支部 18名



5月21日 東中支部 23名



5月24日 五中支部 29名



5月24日 板柳支部 25名



5月24日 和徳支部 25名



5月27日 下町支部 16名



5月28日 大成支部 16名



5月31日 浪岡支部 34名

津軽保健生協 健康づくり委員会

ストレッチ教室

7月・9月10月 毎週月曜日
(月曜祝日の場合は前の週の土曜)
9時30分～11時00分

プログラム

一講話

健康に関する講話、
身体の仕組みなど
(津軽保健生協職員、
ファルマ、ボランティア)



ーストレッチ

転倒予防、ボール、
セラバンド、
リスム体操など
(ひろさき健幸増進リーダー、
弘前市スポーツ指導員)

希望者には終了後に
フットケアも実施し
ます！(予約制)

ストレッチ教室予定表

-1回のみの参加もOKです-

日程	9時30分～10時 ミニ講話
第6回 7月 7日(月)	糖尿病について
第7回 7月14日(月)	わんわんパトロール隊について
第8回 7月19日(土)	帯状疱疹、なんでも健康相談
第9回 7月28日(月)	フットプリント・アンケート記入

講話のリクエスト募集中!! 9月10月も予定しています。

会場:津軽保健生協会館 2F
申込先:津軽保健生協組織部(0172-35-8933)

まちかど健康チェック

月 日	支部名	実施場所	時 間
7月4日(金)	文京支部	コープ西店	10:00-11:30
7月10日(木)	藤崎支部	イトーイン ふじさき 食彩テラス	10:30-12:00
7月18日(金)	浪岡支部	いとく浪岡店 イトーイン	10:00-11:30
7月28日(月)	尾上支部	もてなしロマン館	10:00-11:30

支部 7/25 岩木支部 ●康楽館
予定 (金) 部門レク 小坂町



「医療制度崩壊はどこまで進む? 国保を例に」

2025年7月26日(土) 10:00～生協会館2階ホールにて、「医療制度崩壊はどこまで進む? 国保を例に」と題して、社保平和委員会主催の学習会を開催致します。講師は高松利昌さんをお迎えします。沢山の参加をお待ちしております。

参加希望の方は、組織部 佐々木まで
社保平和委員会(組織部) 0172-35-8933

増資のお願い

津軽保健生協の経営基盤と医療介護事業の運営を支える増資にご協力をお願いします。

